

第3学年算数科 「給食に多く入れるとよい野菜を提案しよう

～表とグラフ～

学習指導者 好井 佑馬

単元の概要・子供と共有した目標 自らの目標に向かう姿

身近な給食について、「一番多く使われている野菜を調べよう」という目標に向け、各月の献立表から使われている野菜を調べた。そして、にんじんが多く使われていることを明らかにし、栄養士から野菜を減らさず食べることの大切さを聞いた子供たちは、みんなが野菜を食べられるように「給食に多く入れるとよい野菜を提案しよう」と新たな目標をもち、統計的問題解決を通して追究していった。

見通し 問題を発見して、課題を設定する姿

学習計画を示し、ノートを見返すことを促しながら前時の学習を確認した。目標を意識できるようにし、一つの観点だけで決めてしまうことの是非を問うことで、複数の観点から野菜を提案することがよいことを確認して学習課題を設定した。その後、活動時間の計画を立てる場を設定することで、学習時間を調整する意識をもてるようにした。

前時に、給食に多く入れるとよい野菜を提案するために計画を立て、「全校生の好きな野菜」「全校生の苦手な野菜」のデータを自分たちで集めていたことを想起し、「栄養（ビタミンA・C、カルシウム、食物繊維）」の観点と合わせて、野菜を決めていく意欲を高めていた。

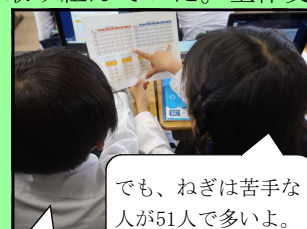


いろいろな観点から提案する野菜を決めよう

行動 諦めずに試行錯誤する姿

全校生から集めたデータを二次元表にまとめたものを基に、「好きな野菜」「苦手な野菜」の特徴を全体で確認し、表の見方を確かめた。そして、学習支援アプリと紙面で観点ごとの表（4種の「栄養」を含む）を一覧にしたものを配布し、自分の提案したい野菜を決める場を設定した。その際、学習支援アプリ上で表を根拠として示し、野菜を記述するシートを用意した。その後、全体交流を行う場を設定し、他の観点や表の見方に気づき、再考できるようにした。

自分が大切にしたい観点を決めた上で、提案したい野菜を考え、その他の観点の表と見比べながら、懸命にどの野菜にするかを検討する姿が見られた。困ったときには、友達に声を掛け、取り組んでいた。全体交流では、自分が見付けていなかった観点や表の見方をして、いることに気づき、大切にしたい観点を変えたり、増やしたりして自分が提案したい野菜を決めることができた。



ねぎの栄養はどれもいいね。

でも、ねぎは苦手な人が51人多いよ。苦手な人が少ないコーンがいいかな。

振り返り 自らの学びを正確に捉える姿

自己調整シートに振り返る視点を提示し、「何を振り返るとよかったかな」と問いかけ、『**『分かった・できたこと』『分かった・できた理由』**』を振り返る」という学びを正確に捉える方法を想起できるようにした。『分かった・できた理由』について、学び方グラフにシールを貼れるようにすることで、分かった・できた理由を振り返りやすくした。

本時の「分かった・できたこと」、「分かった・できた理由」を自分で振り返ろうとする姿が見られた。本時の学び方として、自分に合うものを付け足したり、できた学び方にシールを貼ったりすることで、自分を適切に見つめる様子が見られた。



提案したい野菜を決めることができたよ。友達の考えを聞いて、表を見比べて考えたからだよ。

考察（○：成果、▲：課題）

- 複数の観点の表を見比べながら、提案したい野菜を決める子供の姿が見られた。
- ▲ 野菜を決める目的をより明確にし、学級全体で一つの野菜を決めることを目指したり、より説得力のある理由をつくることを課題としたりすることで、交流の必要性を感じられたのではないかな。

右のQRコードから、学習指導案や他の実践をご覧ください。

